

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第1部課程第142期）

岡山市総務局人事部人事課 藤澤 しのぶ

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

私は、令和6年度の第1部課程に参加し、5月9日から9月13日までの約4か月を自治大学校で過ごしました。受講の打診を受けたときは、自治大学校という存在すらよく知りませんでした。夫と3人の子供との家族会議では、応援や長期間不在にする不安や寂しさなど意見は様々でした。夫の「子どもはともかく、やりたいように」という言葉と、これまで家庭を軸足に仕事をしてきたため、改めて自分のために学びたいという気持ちと、このチャンスを断れば、一生後悔するかもしれないという気持ちで受講を決断しました。

2 入校まで

入校までに、法制科目のeラーニング履修と演習関係の事前課題があります。課題は、危機管理や子ども政策など業務経験のない分野について調べる必要があり、関連する各課へ資料の提供や説明をいただくなどして、課題とeラーニングで入校までの時間は飛ぶように過ぎていきました。市全体の政策や課題に対し、自分がいかに無知で、視野が狭いかが実感され、受講してやっていけるだろうかという不安な気持ちでしたが、丁寧に対応してくださった担当課職員の方々に励まされ、何とか課題を仕上げ、入校の日を迎えることができました。

3 自治大学校での学習

（1）講義と効果測定

基本法制の講義の中で、地方自治法や地方公務員法は、地方公務員にとって関係の深い法律でありながら学習したことがなく、関連法を俯瞰した学習ができたのはありがたかったです。科目ごとの筆記試験やレポートによる効果測定では、久しぶりの試験の雰囲気慣れるまでペンを持つ手が震えるほど緊張しました。6月中旬からの5週間は、毎週明けにある効果測定のため一週間を通じて学習に取り組むと同時に、レポート提出、演習の資料作成や打ち合わせにも取り組みました。平日は1限から6限まで講義や演習があるため、早朝や夜、そして週末に取り組む中で、他の研修生と効果測定対策を教え合い、協力して演習関係の課題を一つ一つクリアしていくのは、振り返れば、苦しいながらも充実感を感じられる日々でした。基本法制の他、福祉、AI、DX、防災、産業、都市計画、マネジメントなど自治体の業務に関連するあらゆる分野において、著名な先生方の講義を受けることができ、多角的な知識だけでなく、今後管理職になるうえでの心構えについても学ぶことができる聞きごたえのあるものばかりでした。また、人口減少、AIの発達といった社会的変化に、今自治体職員が求められる役割とは何かということを改めて考えるきっかけとなりました。

（2）演習

研修課程の半分以上の時間は演習が占めます。演習は、4～7人の班に分かれ、事前に準備した各自治体の課題について討議し、解決案を提示したり、架空の自治体の政策課題をテーマに、課題解決のための条例案

を作り、議会への上程を模した発表を行うなど、実践的な課目となりました。その中には、自身で決めたテーマに対する講義を他の研修生の前で行う模擬講義演習があり、人前で話すのが苦手な私は、準備した原稿を事前に何度も読み込み本番に臨みました。しかし評価は芳しくなく、重要なのは、上手に話を進めることではなく、聞き手の「理解度に合わせ」、「伝え」、「相手が受け取る」ことだと指摘されました。窓口業務が長かった私が、1対1の市民対応で心掛けていたことに通じており、大勢が相手であっても対話の心構えは同じであるという大きな気づきとなりました。最も多くの時間を費やした政策立案演習は、ある自治体への提案を想定して実際に政策を作るというものでした。提案自治体の選定から難航し、提案内容も定まらず、終盤に大幅な修正を行うなど苦労の連続でした。しかし、最後のプレゼンが終了し、限られた時間の中でやり切った、という感覚を班員で共有できたことは本当にうれしい経験となりました。

4 自治大での生活

私が受講した142期は、北は青森から南は鹿児島までの44人での研修でした。女性は9名で寮の2フロアに分かれての生活でした。もともと人見知りですが、毎日の講義や演習、懇親会や、それぞれが企画してくれる様々なイベントに参加し、皆が自然と親しくなれました。最初のイベントの高尾山登山は最も印象に残っており、お互いにまだ顔も名前も一致しない中、思い思いに会話しながら歩き、山頂から見た富士山と食べたそばの味は一生の思い出となりました。その他、日光や箱根、鎌倉観光、テニスや卓球など同期とは本当に多くの時間を共有しました。出身や職種、年齢層も様々な中、家庭や仕事、所属自治体について語り合うことで新たな知識や考え方に触れ、改め

て岡山市の良さに気づかされることもあり、同期との関わりも大きな学びとなりました。

5 おわりに

今回、長期に岡山を離れ、学習に没頭できる本当に貴重な機会をいただきました。研修中は、苦しいこともありましたが、総じて本当に楽しく、有意義で、自身を成長させてくれる経験ばかりでした。中でも、全国の仲間と寝食を共にしながら学び、交流を深めた経験はとても貴重であり、人生の財産となりました。支えてくれた家族や職場の方々、講師をはじめ自治大学校の職員の皆様、政策立案演習にご協力いただいた各自治体職員の方、すべての方々に改めて感謝し、研修で得たことを、今後岡山市に還元することで恩返しをしていきたいと思います。



▲高尾山山頂にて